

会議録

会議の名称	第3回子どもの居場所部会	
事務局	子ども家庭部子育て支援課	
開催日時	令和5年3月3日（金）18時30分から20時08分まで	
開催場所	801会議室	
出席者	委員	部会長 萬羽 郁子 委員 職務代理 古源 美紀 委員 部会員 奥村 啓 委員 鈴木 隆行 委員 谷村 保宣 委員 宗片 匠 委員
	説明者	水津 由紀 委員（まちばのCo-Laboratory）
	事務局	子育て支援課長 秋葉美苗子 子育て支援係長 古賀 誠 子育て支援係 山下 真優 児童青少年課長 深草 智子 児童青少年係長 鈴木 拓也
傍聴の可否	可	
傍聴者数	2人	
会議次第	1 開会 2 子どもの居場所について 3 閉会	
発言内容・ 発言者名（主な 発言要旨）	別紙のとおり	
提出資料	1 資料9 令和4年度子どもの居場所づくり事業補助金補助対象団体ヒアリング結果まとめ	

第3回小金井市子どもの居場所部会

令和5年3月3日

- 萬羽部会長　それでは、ただいまから、第3回子どもの居場所部会を開催いたします。
- 今日は、栗田委員から欠席の連絡を、谷村委員から遅刻の連絡をいただいておりますので、御報告します。
- それでは、次第の(2)「子どもの居場所について」を行います。前回に引き続き、子どもの居場所について審議したいと思います。
- 今日は、令和4年度子どもの居場所づくり事業補助金補助対象団体の一つとして御活動いただいている水津さんに御出席いただいておりますので、いろいろとお話を伺いたいと思います。
- それでは、早速なんですが、水津さんから、30分程度お話をいただいて、その後、それを受けて議論という形で進めたいと思います。水津さん、お願いいたします。
- 水津委員　　どうも皆さん、こんばんは。今日は、居場所づくり事業を、私の所属というか、運営している小金井こらぼという団体で新規の事業を受けてみてのことと、あとそれから、ネットワーク協議会として、今後、参加した中で、居場所事業の課題と可能性みたいなものがあると思ったので、そのことをまとめてお話しさせていただければなというふうに思って、僭越ではございますが、お時間いただきまして、ありがとうございました。
- 私の話は、あっちこっち飛ぶんでございます。非常に散らかりますけれども、大変申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。
- まず最初に、小金井市子どもの居場所づくり事業というのを、今年度開設されたものについて、幾つか、何団体ですかね、新規としては、
- 子育て支援係長　新規は3団体です。
- 水津委員　　自由な居場所については2団体かな。
- 子育て支援係長　そうですね。
- 水津委員　　自由な居場所については新規で2団体、あとは従来の子ども食堂の方が補助金対象という形で、今事業が展開されています。その中の一つが、私のやっておりますまちばのCo-Laboratoryということになります。
- 大体どんなことをやっているかという、ちょっと子どもの顔はあまりよく分からない、

ぼやっとしているので非常に見にくいんですけども、まず、「まちばのC o - L a b o r a t o r y」という名前をつけまして、カフェ、御存じですかね、五日市街道の玉川上水沿いに、C a f e 5 8 8 4さんというところが、御自分の御自宅で開設されているカフェなんですけど、そちらを毎月第2、第4の土曜日の午前中、定期的にお借りして、居場所づくりということでやらせていただきました。

どういうことをしているかといいますと、一番左の下にいるちょっと学生ではないんですけど、学生の立場に近い彼がですね、私とあと持回りで何人かのスタッフで、見守りをしながら、そこで子どもたちが自由に遊びに来ると。勉強してもいいよということなので、最初のうちは結構割と宿題をやったりとか、自由勉強みたいなものを、テーブルが幾つかある中で、好きな時間、好きなことをやるというふうに。大分飽きてくると、こういうタブレットで遊んだりとか、トランプとか、UNOとかをしたりとか、あと、彼がアマチュア将棋の4段の子なので将棋のレクチャーをしたりとかしています。

あと最近、この写真にはないですけど、中学生の女の子がぶらっとやってきて、彼女は非常に読書と絵を描くのがすごく好きな子で、いる間中ずっと絵を描くか本を読んでいます。特に誰かと関わるといことはないんですけども、毎週来るんです。それで、たまたま、みんなまだ来てなかったのか、帰っちゃった後なのか、にどんな本を読んでものみたいな話を、私として、そっからがちょっと表情が変わって、すごく自分の好きなことに関して話し始めてくれて、そしたら、毎週来れるようになって、中学生だから、女の子1人で来るのはなかなかハードル高いかなと思っていたんですけど、来てくれるようになったということと。

あと、中学生の男の子が何人か、毎回ではないんですけど、将棋の好きな子なので、来てやったりとかというようなことをしています。

非常に自由な空間というのを目指してまして、勉強を教えるわけでもなく、強いるわけでもなく、人と遊ぶことも強いるわけでもなく、自分でやりたいことがあればやってもいいし、誰かとやりたければやってもいいみたいな形の時間で、2時間の中で出入りも自由ということでやらせていただいています。

この事業は、非常に私の中では、今子どもたちの場所としていい形が取れているかなというふうに思っていますが、課題もたくさんあります。課題の一つとしては、まず、場所の確保なんです。今、C a f e 5 8 8 4さんのほうをお借りしているんですけど、永久的に借りられるわけではないということと、あと、やはりお借りするには、ちゃん

と日程を先に出しておかなくちゃいけないで、たまたまなんですけど、近隣の小学校が全部運動会だったとか、近隣の小学校が全部授業参観だったとか、土曜日が、という日があったりとかすると、あれ、今日、誰も来ないけどといったら、そういうような日だったということがあって、融通利かせて変えるということができない、施設をお借りしているのです。そこが非常に一つのネックということ。

あとは人の確保です。今メインでやっている学生上がりの子が忙しくなってくると、次にやっぱり新しく人をつなげたいなと思って、誰かまた新しいスタッフを招き入れたいと思っているんですけども、そこがないと継続的にできないということがあるので、人の確保というのがまずあるかなと思います。

あと、広報活動です。チラシを作って、桜町の外れのほうにあるので、二小と緑小と緑中かな、に配布したんです。何で3校にしているかという、いっぱい来られても困っちゃうんですよ、場所が狭いので。なので、地味にちょっとずつ広報しているんですけど、そんなようなことがあって、難しさがあるんですね。広報でチラシを配った翌週は、めっちゃいっぱい来ちゃったりとかするということもあって、なかなか難しいなというのが一つです。もうちょっと広い場所で、何人来ても構わないところだったらもつとよかったのかなとも思うんですけども、場所の問題というのが一つあります。

事業自体は、費用と、いろんな費用対効果とか、私たちにとってのとかというのを考えたときに、別にこれで何か得るわけではないので、人件費と場所代と、あと印刷物を刷るためのお金が出ればいいなと思っているので、今の範囲内で可能かなというふうには考えています。

ただ、あともう一つ、名前は連絡会でいいんだったっけ、というのががあるんです。子ども食堂さんとはまた別の居場所の事業をやっている人たちの会議というのが、その立ち上げのところから、これで2回あったのかな。そこに参加させていただいて、まず、いろんな方が参加されたんです、初回は、説明会に近かったのです。そのときに、いろんな御意見というか、ものが錯綜いたしまして、どうしたらいいかなみたいところがあったんです、正直なところ。自分のやりたいことをしゃべりたい人もいるし、助成金に対する文句を言う人とか、いろいろな人が来るので、いろんなことを思ってるんですね。そのときに、やはり行政の方の話せる範囲というのと、市民側の聞きたいことというのがギャップがあって、言葉の変換が必要だなと私は個人的に思ったんです。長く市民活動をしている私たちと行政との間に誰かが立たないと、この連絡会自体もあまりうまく

回らないなというのが、一つ思ったのがあります。

なので、たくさんの方に参加していただけて、有意義な交流を図る必要性はもちろんあると思うんですけども、そのための準備とか、交通整理とか、役割分担をしながら運営連絡会を有意義に運営できたら一番いいのになというふうに感じたのが、最初の事業に取りかかったところの感想です。

そして、今、居場所づくりのことにに関して、前も皆さんとお話いろいろ、前のときもお話しさせていただいた中で、子どもの居場所をつくるときの、必要なものって何だろうねという話をいろいろさせていただいたと思うんですけど、例えば、これから新しい居場所をつくりたいんだと思う人がいるとします。どこに相談するのとかということもありますし、あと、居場所で、これは実際に相談があった事例なんですけど、まず、子育て・子育て支援ネットワーク協議会で、「えにえに」という前から紹介していると思うんですけど、居場所のサイトを運営させていただいています。その居場所のサイトを立ち上げた途端に、今まで「のびのびーの！」という子育てサイトにはなかったような、メールの問合せとかが非常に多く来るようになりました。

例えばですけど、居場所のところに行って何かボランティアをしたいんだという人とか、あとは、何かあるので、余っている物があるから使ってくれるところはないかとか、もらってほしいとか、あとは、子ども食堂を運営したいと思った学生が、どこに問い合わせればいいかが分からないとか、そういうような問合せ、あとは本当に具体的に、自分のお子さんに関する悩みをメールでお問合せなどをされる方もいました。それはもう多分、相当切羽詰まっていたと思うんですけど。

そういうような状況があって、「えにえに」という看板を上げた途端に、これだけの相談というか、情報が集まってきてしまうということが、まず最初にありました。そこも含めて、やっぱり、場所をつくりたいんだけどどうしたらいいか分からない人とか、ボランティアしたいとか、そういったようなことを、あと、ほかの団体の情報が、どうしているのかが欲しい、知りたいとか、あと、もっと子どもの居場所とか、そもそも子どもについて学びたいんだという意見もありますし、連絡会の研修とかももうちょっといろいろあったらいいんじゃないというようなことをおっしゃる方もいらっしゃいますし、そういう意味で、いろんなものを求められている、居場所の事業一つやるためにも。

求められているものを、じゃあ、子育て支援課で解決できるのかという話になると、

それは非常に難しいことだというふうに私は思っているので、やっぱりここは、中間支援的なコーディネートをする役割の組織があることが、ふさわしいのではないかとこのように考えています。それは、皆さんと前年度、居場所の事業のお話をしていたときにもその話は出ていたと思うんですけど、実際に活動を始めたら、より一層その問題が浮き彫りになったというか、求められているということを実感したのかなというふうに個人的には思っています。この全てコーディネートするような中間支援をどこかにやっぱり置くべきじゃないかということが今の私の、協議会としても考えております。

具体的な内容としては、先ほど申しました事業をやっている方も含めて、まだ、助成金を申請はしていないけれども、子どもの居場所をやっているんだとか、そういういろんな方がたくさん。新規2団体と言ったけど、もっといっぱいあるんですよね、まちの中には、やっている方が。なので、その人たちがみんな参加しながらできるような連絡会の充実ができないかなということ。

あと、さっきも言ったけれども、子どもの見方だとか、そもそもの居場所の考え方とか、今の子どもの現状とかということが学べたりできるようなものが欲しいという話もありますので、その研修を充実させることができるんじゃないかなと思っています。それは、協議会、今108団体ぐらいあるんですけど、皆さんそれぞれ、いろいろところでそういう仕組みをつくっていますので、そこからネットワークを広げれば可能かなというふうに考えたりしています。

あと、補助金です。今回の補助金も、細かいことをやはり子育て支援課に直接相談するというのはなかなか難しいのかな、ハードルあるのかなと思ったときに、ここに取りあえず、何か今の状況をお話ししていただけるような場所があればいいかなということと、先ほど言ったように、行政の方は行政の役割がありますし、崩せないこともたくさんあると思いますので、そこにやっぱり民間としての何か思いとかがつなげるような役割の人も必要だと思います。

あと、「えにえに」と先ほど言いましたけど、これ、後でぜひ検索していただけるといいと思うんですけど、そこを充実すると、今、加盟団体の方の情報発信をしているんですけど、そこにいろんな人が体験に来て記事を書いて載せる、ただの紹介じゃなくて、そういうような形のものをやっているんですけど、それをもっと増やせたらいいなということも思っていますし、あとは、先ほど言った、人だとか、物だとか、場所の情報収集みたいなものは、今やっている「のびのびーの！」や「えにえに」のサイトの延長線

でもできると思うし、そのことができれば、すごくいろんなものが有効活用できるんじゃないかなというふうに思ったりもしています。

あと、居場所をつくりたい人に対しての相談窓口だったり、簡単な、マニュアルという言い方は好きじゃないので、何というかな、パンフレットというか、そういうようなものがあれば、もうちょっと皆さんに分かりやすくなるかなというふうに思ったりしているところでございます。

やっぱり、小金井市らしい居場所づくりってどんなものかなというふうに思って、まずは、東京学芸大学というすばらしい大学があるし、人材もいっぱいありますよね、場所もありますし。というところでの、学校、大学との連携というのは絶対可能なことだと思うので、何か前に向けて、そういう子どもの居場所に関しても協働できるところが、地域連携でないかなというふうに思っているのと、あと、小金井市には市民団体が、「子ども」というキーワードで活動している人がたくさんいるんです。先ほど、ネットワーク協議会でも108団体と申しましたけど、それだけの方が、大小含めていろんな活動をしている。そのことを、ネットワークを今ももちろんやっていますけれども、もっと強化することができるんじゃないかなということ。

あと、既存の組織です。要は、子ども会だとか、学校の放課後子ども教室の状況とか、その辺のところの連携だとか、いろんな形で、今あるものや組織との連携とかということもしていくべきかなというふうに思っているんです。

いつも私がこれを言うと、ちょっと行政の方が非常に申し訳ないんですけど、まず貧乏なので、お金ないので、ハードはもう期待しません、できませんだと思います。これはもう申し訳ないけど。なので、ハードがないならソフトでカバーということで、今ある小金井市の人材やいろんなものを使って子どもの居場所をつくる、構築することができるんじゃないかなというふうに思います。

小金井って、やっぱり私も東京都のいろんな自治体の人が、同じようなことをやっているところとたくさん接点があるんだけど、非常にコンパクトですばらしくいいまちなんです、お金がないことを除けば。なので、小さいまちの特徴を生かしてできることというのがあろうというふうに思っています。

あと、ネットワーク協議会のスローガンが、地域で子どもを育てるということにしているんですけど、そのことを共感する人たちがたくさんいます。108団体と言いましたけど、皆さん、加盟する団体の方には、そのことを理解していただいた団体に加

盟してもらっているんです。なので、そういうコンセプトでも、みんなが前を向いて、そういうふうにやっぱり手をつないでいこうという姿勢を持っている人がたくさんいて、目に見えているということが、すごくまちの特徴じゃないかなと思っていますので、その辺がうまく活用できるような仕組みができれば、すごくいいものになるんじゃないかなというふうに思っていて、そういうことが総合的にできれば、お金のないまち、小金井でも、これだけすばらしい子どもの居場所、子どもの育つ環境というのがつくれるというふうにならないかな、なるはずだなというふうに考えています。

小さい一歩から大きな問題解決ということで、まずは、行政とか、市民とか、NPOが、補助金とか、委託とかだけじゃなくて、新しい協働の形というのをやっぱりこれからの時代はつくっていかなくちゃいけない、どの部署でも思っているんですけど、子どもに関することは、そこがまず足がかりでできることだというふうに、今、こども家庭庁の問題もありますし、そうすると、子どもを総合的に見ようという流れですね、世界の流れが来ているという中で、子どもというキーワードで新しい協働の形を目指すことができるんじゃないか。今だったら、いろんな仕組みの中で転機になれるんじゃないかというふうに考えました。

こども基本法をちょこっとだけ載せているんですけど、これは、令和5年の4月だったかな。

○萬羽部会長 令和5年。

○水津委員 5年だよ。5年というふうに言われているんですけども、今までずっと言ってきた子どもの権利というものに対して、保障していくんだという姿勢が国の中にあらわれてきたということのあらわれだというふうに、前向きに捉えています。悪いことだけじゃなくて。こども家庭の家庭というところに物すごくひっかかるものもありつつも、でも、今そういうふうに子どものことを総合的に推進するということの本気で国が考えてきてくれたのであろうと、いいほうに捉えています。小金井の子どもたちにも、そのようにあるべきように、できることから始めるということで、今ある新しくできた補助金事業が有効活用できるような取組というのが、今後、やっぱり一つのモデルになると思いますし、やっていくべきだし、やれることだというふうに思っています。先生もいらっしやいますし、いろいろと考えればできることがあるんじゃないかなというふうに思います。

以上でございます。すみません。簡単ではございますが、失礼いたしました。

○萬羽部会長 ありがとうございます。

次に、少し事務局からも資料を提出いただいておりますので、そちらを説明いただいて、その後に、水津委員からの説明と事務局からの説明に対しての意見交換をしたいと思っておりますので、事務局から説明のほうをお願いします。

○子育て支援係長 資料9を御覧ください。前回の部会以降、令和4年度子どもの居場所づくり事業補助金補助対象団体全てに対しヒアリングを実施しました。具体的には、各団体1時間程度、2か月ほどの期間をかけまして、団体様様の希望によりまして、こちらから訪問、もしくは市役所へお越しいただいた上でヒアリングのほうを実施いたしましたが、子どもの居場所づくり事業補助金に関わる部分のみを抜粋というふうな形で資料として表にまとめております。詳細のほうにつきましては、資料を御覧ください。

○萬羽部会長 ありがとうございます。水津委員からは、補助対象団体の一つとしてお話をいただきまして、今のヒアリング結果のほうも、そちらの団体の皆様から伺った内容ということです。

これら、水津委員からの説明及び事務局からの説明に対して、御意見や御感想、御質問など受け付けたいと思うんですが、いかがでしょうか。水津委員、事務局、どちらに対してのものでも大丈夫です。お願いします。

○奥村委員 すみません。あまりよく知ってないところが多くてあれなんですけど、108団体というと、どの層ぐらいに支援が多いのでしょうか。小学校向けの場所とか、中学校とか、それとも乳幼児向けとか。思ったよりも108って多いなと思って。どこら辺が多いと、散らばっているとかいかがでしょうか。

○水津委員 散らばってます。

○奥村委員 大体、小さいところから大きいところまで、フリーみたいな感じのところが多いですか。

○水津委員 物すごく小さいところもありますし、大きい団体だと、一番多くてどこなんだろう。どこだろうな。プレーパークとか、メガロスさんが、今、どうしてるかな。加盟するかどうかという感じのところですかね。メガロスさん自体は営業していますけれども、その中で地域貢献ということで小金井市とも協働していますので、その部分で可能かなというふうに考えています。

あとは、青年会議所ですとか、不登校の親の会とか、障がいを持つ方の会ですとか、本当雑多と言ったら失礼ですけど、いろんな方がいらっしゃいます。あと、実際に自分

たちが子育てしている子育てサークルみたいなのに登録している方もいらっしゃいます。

○奥村委員 ありがとうございます。

○宗片委員 今に関連して、団体の中で場所が必要だという団体ってどれぐらいあるんですか。

○水津委員 いっぱいあると思います。

○宗片委員 みんなやっぱり場所が欲しいと。

○水津委員 そうです。

○宗片委員 基本は、みんな公民館だったり、自宅だったりとかでやっている。

○水津委員 自宅でやられている方もいらっしゃいますし、公民館の抽せんにかけて活動している方もいらっしゃいますし、もう本当に場所は争奪戦です、常に。

○宗片委員 補助金を使って、どこか、お金を払って借りている方もいらっしゃるのでしょうか。

○水津委員 うちは、補助金を頂けるといことなので場所代が払えるから、今回は民間のところをお借りしているんです。そうすると、抽せんとかということにはならないので、定期的にお借りできるという利点だけでそこを借りているんですけど、例えば公民館だとかを拠点にするとすると、毎回抽せんの結果によって左右されるということになると、本望ではないなというのが一つあるんですね。

あと、自分のところが物すごく大きいものを持っていれば可能でしょうけれども、そんなことはあまりないので、そういう意味では、どこでやろうか、どうやってやろうかというのは、皆さん考えて、正直2団体しか挙がらなかったというのが私の中ではちょっとショックというか、説明会にたくさん来ていらっしゃったので、もう少し増えるのかなと思ったところで、あまり新規のものはなかったのは、やっぱり条件が厳しかったのかということではちょっと感じてはいます。

○宗片委員 場所の狙い目みたいなどころってあるんですか。こういう場所で、もし使えるなら本当は使いたいんだけど。例えば、行政にその辺入ってもらってだとか。

○水津委員 これはちょっと個人的な考え方なんですけど、やっぱり空き家対策とか、何か協力していただけるようなことがあると、幅が広がるのではなかろうかというふうには考えています。

○鈴木委員 ちょっとこの制度というか運用で、理解してないことがあるんですけど、連絡会というのは、どなたが主催してやっているんですか。

○子育て支援係長 従前は子ども食堂のみを補助対象としておりましたので、いわゆる子ども食堂の対象団体さんに対して連絡会というものを開催しておりました。ただ、この子ども食堂を

対象とした連絡会に関しましては、小金井市社会福祉協議会が主催しており、そこに小金井市の職員も同席させていただいておりました、今回、子ども食堂のほかに、学習支援の居場所と自由な居場所を補助対象に拡大したことに伴いまして、この連絡会に関しましては、子ども食堂が小金井市社会福祉協議会、学習支援の居場所と自由な居場所が小金井市の主催となりますが、今年度は同日開催で市役所で行っております。

○鈴木委員　　今まであった連絡会をそういう形で転用しているというか、拡張して、継続してやっているという理解でよろしいですか。

○子育て支援係長　　そうです。この連絡会に関しましては、特に補助金の申請を予定されている団体さんに限らず、特に御出席の条件を設けずに行っております。この部会の中でも、出席者数というふうな形で御報告をさせていただいていると思うんですが、あくまで興味のある全ての方に門戸を広げて行ったということになります。

○鈴木委員　　ありがとうございます。今、水津さんが紹介してくれた話の中だと、やっぱり行政側の説明と市民側の理解とちょっとそごがあるというような話だとすると、こういう会で横のつながりをつくるのが難しかったりはしないのかというのがちょっと不安な感じで、実際、問題意識の中にも、連絡会をうまく機能させたほうがいいかなみたいなのがあったと思うんですけども、その辺というのは、何かこう、あるんですか。今後の展望的なというか、このままやっていくのか、何か変えようと思っているとか、何か議論にはなっている、それとも、ここでこれから議論をしましょうという感じなのか、ちょっとその辺を教えてください。

○子育て支援係長　　今年度に関しましては、子ども食堂のほかに子どもの学習支援と自由な居場所を補助対象に加えた新たな補助金をスタートさせた初年度といったところがあり、春先に説明会を開催させていただいたんですが、その会は従来の連絡会というよりは、補助金の説明会みたいな要素がちょっと強かったかなというふうなところです。

○鈴木委員　　前に言っていた、補助金が出ますと言って説明会を開催しましたというのと、今回言っている連絡会というのは別のものですか。

○子育て支援係長　　別のものです。連絡会というのは大体、夏から秋口ぐらいにかけて年に1回行っていたところなんですが、補助金というのが年度を単位にしていますので、いきなり夏とか秋口ぐらいにやっても、いわゆる4月に遡ってといったところが、知らない団体さんに関しては、スタートが後半になってしまうといったところもありますので、春先に補助金の説明会というのを今年度は行わせていただいております。

- 鈴木委員 なるほど。分かりました。ありがとうございます。
- 宗片委員 ヒアリング結果の中に、1万円掛ける2回か、5,000円掛ける4回かとあるんですけど、市としては、5,000円掛ける4回にしたいというのがあるのでしょうか。
- 子育て支援係長 こちらに関しましては、ヒアリング実施中に、団体さんのほうから、現行の1か月当たり1回1万円掛ける2回上限から、1か月当たり1回5,000円掛ける4回上限への変更について御意見をいただいたため、他の団体さんにも御意見を伺った次第です。そのため、市のほうからこう変えたいということではなく、前半の補助対象団体さんのヒアリングの中でこういった御意見いただきましたので、後半の団体さんには全てその辺の御意見をいただいたというふうなところです。
- 宗片委員 これに関しては、市のほうでこれを受けて、じゃ、枠を変えようというのはあるんですか。
- 子育て支援係長 結果的に全ての団体さんに対して御意見をお聞きしたというふうなところになるんですが、子ども食堂とそれ以外の居場所に分けて考えなくてはならないというふうに考えております。といいますのも、子ども食堂に関しましては、市の補助金以外に、東京都の補助金も活用させていただいているというところがありますので、なかなか子ども食堂に関しましては、市の考えのみで動かせるところではございません。
- ただし、学習支援と地域居場所に関しましては、市の裁量というふうなところで、検討する余地はあるかなとは思いますが、ヒアリングの結果にもありますとおり、なかなかこれから実績報告等々も出てくるところではあるんですが、ヒアリングの中では、1回当たり5,000円以上かかってしまっているということを確認しております。要は、団体さんによっては、いわゆる子どもの居場所づくり事業補助金ありきで、これを前提として居場所づくり事業を始めた団体さんもいらっしゃいますので、なかなかこのタイミングで急に変えるというのは難しいかなというところが個人的な意見です。
- 宗片委員 ありがとうございます。単純には、月2万円まで上限で、何回でもいいよというのが一番シンプルな気がするんですけど、それは制度的には難しいとかあったりしますか。
- 子育て支援係長 重複した回答になってしまうんですが、やはり子ども食堂とそれ以外とは分けて考えないといけないかなというふうに考えております。
- 宗片委員 子ども食堂以外であれば、そういう枠できるはずということですか。
- 子育て支援係長 そういうことも検討の余地があるというふうには考えておりますが、その辺というのが、やはり団体者様、今年度からスタートしたところで、いわゆる補助金ありきで御

検討いただいている団体者様もいらっしゃると思いますので、ちょっとその辺りは慎重に考えていく必要があるかなというふうに考えております。

○宗片委員 分かりました。ありがとうございます。

○奥村委員 先ほどの108団体でいろんなところがあるので、その108団体を例えば学習支援向けの団体だけとか、子育て系とか、居場所系とかで分けたりすると、回数増えるけれども、話が結構できたりとかという、そういう感じの話ではないですね、きっと。

○水津委員 居場所の連絡会は居場所事業としての連絡会なので、それはまた別だと思んですけど、ネットワーク協議会の加盟団体としては、その人たちを対象にした交流会というのをしていますので、例えばですけど、不登校の人、グループの人たちにお話をしてもらって、それに対する交流をすとか、障がいのあるお子さんを持ちの方にお話をさせていただいて、それに関する人、加盟団体以外の人参加されたりとかというようなことをしたこともありますし、あと、サイトも見ていただければ分かるんですけど、いろいろカテゴリー分けされているんです。だから、それだけカテゴリーがあるというふうに見ていただけると、豊富だなということは分かっていたらいいかなと思います。

○奥村委員 どんなふうな連絡会だと役に立つというか、というふうな感じですか。分けて何回もやったほうがいいのか、それとも、とにかくいろんな団体が一気に集まったほうがいろんな情報が得られるのか、それとも回数をもっと増やすと、たくさんいるけれども、ちょこちょこ、ちょこちょこ、だんだんと、そのときそのときで多分必要な相手方が変わってくるのかなと思うと、回数を増やせばいいのか、どうするのが一番いいのでしょうか。

○水津委員 ここで言っている連絡会というのは、居場所の連絡会ですので、子どもの居場所というものを考える人たちが集まってきたと思うので、それは、会が多ければいいというほどのものではないかなと思うので、定期的に子どもの居場所に関しての連絡会を、行政が主催ですので、そこを充実させるお手伝いができるような支援ができればいいなということが一つと。

あと、それとは別に、子どもの居場所はどうか、子どもの居場所に関してとか、子どもの今の、先ほども言いましたけど、現状みたいなものの学習とかということは、連絡会にももちろん用いることもできるけれども、ネットワーク協議会としては、別途いろいろな形でさせていただけるように今なっています。子育てメッセとかやっております、そこは、支援者同士の交流ということになっていますので、そこで子

ども、もともと居場所の発案自体も、その子育てメッセの中で、子どもの居場所を考
えるという部会を立ち上げて始めたものをここで形にさせていただいたということもあ
ります。

そうですね、ネットワーク協議会自体は、子どもの居場所だけをやっているわけじゃ
ないので、それこそ乳幼児のお子さんをお持ちの方にとっては、もっと必要なものがあ
ると思いますので、それは、例えば今だと、公民館の自主講座を使って、今の現役のお
母さんたち世代に向けた取組ということもやっていますし、あと、子育てというか、子
どもたちがどう育つかということで、「あそびこそまなび」とかいうタイトルをつけて
いるんですけど、そういう形での事業みたいなことをやらせていただいたりとか、それ
こそ108、たくさん団体がいますので、いろんな形のものがあります。ただ、でも、
根底には、地域で子どもを育てるというコンセプトをみんな理解した人たちが集まって
いるということで、それは、居場所事業の連絡会の中にも、どこかで生きるんじゃない
かなというふうに考えているということです。

○奥村委員 ありがとうございます。

○宗片委員 先ほどの行政の役割と民間の役割という話があったときに、どこまでが行政の役割だ
とお考えなのかちょっと伺いたいなど。

○水津委員 行政は行政ですから、公平性、公共性というものが何よりも大事ですし、法律に基づ
いて、条例に基づいてお仕事されていますよね。でも、市民活動というのは、ある意味、
NPO法人なんかでも特化しています。例えば、うちだったら、子どもの文化活動をし
ていますから、目的が子どもの文化だけですよね。あと、外遊び、プレーパークだつた
ら、野外活動というものを目的にしている。いわゆる専門性、ターゲットを絞って、活
動するんですよ。そうすると、行政さんのおっしゃる公益性とか、公共性とか、公平性
みたいなものって、すごく大事、それがなかったら大変なことなんですけど、そこに、
自分たちがこういう活動をしているというふうに言ってきたときに、何て言ったらいい
のかな、要求言語というのかな。その辺のところ、やっぱり変換器が必要だなという
ふうに私は思ってしまったんですね。なので、そこにいる人にしてみれば、そういう活
動をしている人にしてみれば、当然の考えだったり、要求だったりとかってするだけ
ど、行政にしてみれば、この仕組みはこういうものなんですってあるでしょう。そこに対
して、じゃ、これはここでこういう話をしたらいいんじゃないとか、このことはまた今後
やりましょうよとか、何かそういうかじ取りみたいなものってあったほうがいいなとい

のが実感だったということですね。

○宗片委員 中間支援組織が必要だというのであれば、それをここねっとで。

○水津委員 言い過ぎちゃったけど、やろうと思えばというか、のようなところができたらいいのかなというふうには思っています。それをそれだけの方に集まっていただけというのと、いろいろ今までもいろんなことをやってきましたので、ここねっとに限るわけじゃないんですけども、とにかく何か中間の支援、間に入る人というのは絶対必要だなというのは思います。

○宗片委員 両方の言語がしゃべれる人が間に入った方がいいですね。

○水津委員 そうですね。いたほうが良いと思います。だから、1つの団体だと、その人、その団体の利益になっちゃうけど、全部広げて小金井の子育てに関することをという高い目的があれば、そんなに外れないで話ができるかなというふうに考えています。

○宗片委員 じゃ、逆にそういう団体に属していない人のほうが。

○水津委員 属していてもね。私は属していますが、その立場は全然違って物を考えているつもりなので。

○宗片委員 中立に立てる人。

○水津委員 中立に立てる人が必要かなというふうに思います。

○宗片委員 そういう意味では、中間組織が必要だというときに、つまり、人であって、特にパワーが必要だとか、もっと人手がないといけないとかいうわけではない。

○水津委員 はい。ただ、手弁当でやるというのは、基本よろしくないと思うので、それなりの組織として仕事をするとしても、やっぱりただでやり手おばさんじゃないんだから、そういう行為だけで物が進むということではないし、ある種、責任というのも必要だと思うので、そこに対する何かというのは、やっぱりそのことを誰かがどっかでやるとするならば、それは必要な話なんじゃないかなというふうに思っています。

それを例えばすごくお金のあるまちだったら、大きな何かだったり、おっしゃれな建物を建てて、その中心に職員がいてさ、それで何か運用できたらいいなとか思いますけど、それが小金井市らしいかという、今の小金井市として現実的でなく難しいとなると、別の方法、できる方法、ないことを言ってもしょうがないんじゃないかなというふうに思います。

何か貧乏みたいなことばかり。

○谷村委員 水津さんがおっしゃること、すごい共感はするんですけど、モヤッとするとところも正

直あります。

○水津委員 　　どこがモヤッとするか教えてください。

○谷村委員 　　一つ、まず、行政の役割で公共性とかフラットというところは、確かにそうだと思いますけど、僕、根本的に行政に要求するのは、市場で救えないところという一番最弱者を救うのは、マーケットから外れた弱者を救うのは行政しかないと思っていて、そこは偏る偏らないとかではなく、最弱者は確実に行政がケアすべきだと思っています。だから、公平性というのも、ちょっと言葉によっては、多分みんながフラットにという支援の在り方になってしまうかなという感じがしててというのが一つ。

あと、各団体というところの、例えば不登校の子どもを見るとかという団体が、今現状多分足りてないからやる、手弁当でやっている方にケアをとるところはすごい分かるんですが、逆に飽和してきたときにどうするかというのも一つ考えておかなきゃいけないのかなと。例えば、公園で子どもを遊ばせる団体というのが、今、希望している方とやっている方というのが、絶妙なというか、微妙なバランスで成り立っているところがあると思うんです。だから、これがいっぱい入ってきましたと、公園で遊んでいる親御さん五、六人が団体立ち上げますというのが乱立してきたときにどうやってフィルタリングするのかなというのと、結構難しいのかなとは思っています。

その中間の役割がどう閾値を設けるかというのも、ある種、立ち上げの段階で考えておかないと、ぐだぐだに、どんどんどんどん、同じ要件を満たしているものに対して、こっちは補助金出すけど、こっちは出さないというわけに多分いかないと思うんです。その要件の閾値というのは、多分すごいデリケートに扱わなきゃいけないのかなという気はしています。今、現状は多分、全ての微妙なバランスで成り立っていて、助成金の金額等々も、この微妙な、多分要件よりも先にその実態に合わせた形での助成金が発生しているから、要件をまずはばんっと、本当に議論して要件が決まってないから、要求仕様がという気は正直しています。

最後に、小金井市のお金がないから手弁当でやられている方がいる、お金がある市がばんっと、武蔵野市で何か建てたりとか、立川で漫画本をいっぱい置いてある公共施設が建ったりということは実際あるんですけど、民間で誘致するというのも一つはありかなとは思って。例えば、賛否両論ありますけど、TSUTAYA図書館とか、ああいうやつとかもあるわけじゃないですか、ある種ビジネスモデルにちゃんとのっかった。そういうやり方というのは、小金井が恵まれているのは、空き地がいっぱいあるかなとい

うところで、もう少し市がまともに、民間のそういう子どもが集まれるような場所を誘致するというのも一つの手法かなとは。100円パーキングをそこまで市民が求めている気はしないので。

結論として、どういう、5年後、10年後というビジョンというのを見た上での、仕様要件というのをもっと議論すべきなのかなと。とはいえ、背に腹は代えられず、取りあえず補助金という制度は、なるはやでやるというのは同意なんですけど。

○水津委員　そうですね、新しく補助金が出たということだけで、まず一つのスタートだったと思うんです。民間と行政の橋渡しというふうにももちろん言いましたけど、問題、課題を見つけて、それを行政に対して提案するということはしなきゃいけない、中間支援としてね。例えば、ここにこういう状況の人がいる、ここはどうしたら、どうにかならないのかということ、窓口になって相談するとかということもしないと、コーディネートの役割は果たせないと思っているので、そういうことなんです。

行政が、公平と公共だから、ほかの困っている人に手を出さないということは全くないですね。逆に言うと、お金にならないことをやらなきゃいけないのが行政の仕事ですから、そこにピンポイントに当たるようなことがコーディネートとして、実はここが、こういうところが問題、今の補助金だって、やっぱりこういう、これだここが問題で使いにくいよとかという話とかが連絡会とかでももちろん出れば、そのことを一緒に話をするとかというのはありだと思うんです。単純に言語を共通にするとか、御用聞きをするとかというわけではないと思うので、そういうことがまず必要なというふうに思っているのと。

やっぱり、いろんな人がいて、それは今、確かに絶妙なバランスでいろんな活動が繰り広げられているというのは事実だと思うんですけども、だからこそ今、今だから、だから今それをシステム化するということが必要なのかなというふうに思います。だから、谷村委員がおっしゃるように、いろんなことをきちんと整理して、今あるもので、お金ないからさ、このぐらいでということだけじゃなくて、ちゃんとビジョンを持って、小金井市の子どもの居場所という、ひいては、小金井の子どもについてどうするのかということがちゃんとビジョンとして持てるような仕組みというのは、やっぱりつくっていく必要はあるなというふうには思いますね。

○谷村委員　なるはやでお金を落としたいというところはすごい分かるんですけど。

○水津委員　あと、何か、前ちょっと、何年か前に、大きな書店さんから、ネットワーク協議会に

お話があって、本の、どっかそういうところで図書みたいなのができませんかねみたいなことがあったんだけど、コロナでちょっと立ち消えになってということもあるかもしれないです。

○谷村委員 そういうのはいいですね。

○水津委員 そういう企業の窓口ももしかしたら、できるかもしれない。

○谷村委員 土地あげましょうよ。本屋自体が全然ない。大学生がいっぱいいるのに、本屋が少な
いって。みんな、本買いに出かけちゃうんですよ。

○水津委員 本だったら図書館の施設図書室みたいなのを自分でやっている方かもありますけど、
それは知られてなかったりとかするから、それをもうちょっとアピールできたらいいな
とか、個性豊かにやられている方はそれを尊重したいし、あと何か、それこそ新規の場
所でそういう本屋さんとかが、社会貢献としてやるということであれば、条件整理した
りとか、その場所で、ただ本を並べているだけじゃちょっとつまらないから、そのと
きもそういう話したんです。例えば、午前中のスペースで乳幼児のお母さんで、午後か
らはもっと大きい子が自由に本を読めるとか、本を読むだけじゃなくて、自由にできる
ような場所とかつくれたらいいよねみたいな話をしたはしたんですよ、実現しないけど。
それが、本当にちゃんと組織として受けられれば、実現に向けてちょっと可能性はある
んですよ。

○谷村委員 ニーズも多分、すごいあるような気はして。みんな、本を買いにどんどん出かけてい
くじゃないですか。市に歩いていけるところが。そこはちょっともったいないなどは思
いますね。30年近く前から小金井に住んでいる身としては、本は渋谷なり、新宿に買
いに行くものとなっていると、ちょっと寂しい。

○水津委員 今、本はインターネットで買うものなので。

○谷村委員 そうですね。

○水津委員 図書館の、貫井北の図書館とかは、すごくいろんな面白い取組をされているんです。
そういうことだってみんな知らなかったりとかするので、そういう情報とかもやっぱり
あげたいとか思いますね。「えにえに」つくっている、子どもの居場所マップを前に
配ったと思うんですけど、そういうものとか、あと、サイトでもっと紹介できたりとか
というのは、可能性は無限にあるかなと。

○谷村委員 話がずれるかもしれませんが、企業を誘致する、企業にやってもらうというところ
は、広告力は企業のほうが圧倒的に強いので、そっちを任せられるというのは結構で

かいかなと。貫井の図書館も、結局はやっぱり広告、宣伝力といったら、そこが仮に民間が半分かんでたら、多分すごい勢いで宣伝すると思うんですよ。だから、そこも含めて、外の力というのがあればいいかなと思いつながら、でも、そうすると、助成金、補助金というところから大分離れていくかなというの。

○水津委員　総合的に考えて、適材でいろんなことができるといいかな。貫井の図書館司書の人、この間、NHKのニュースに出てたんですよ、朝の「コイカツ」という。

若い男女が「コイカツ」といって、本と一緒に読み合うみたいな、イベントみたいなのをやっているんですけど、なかなか面白いなと思って。

○萬羽部会長　そういう意味では、中間支援組織というのが、多分支援団体もそうなんだけど、もちろん、水津さんがおっしゃっていた地域で子どもを育てるとのことへの共感という意味では、それは企業とか、営利団体とかも入ってもいいし、行政ももちろんそこに関わってくるような気がするので、中間支援組織というのが、すごく浮いている、浮いているというか、そこだけの独自の団体というか、組織になるというよりは、それを本当に企業とか、行政とかも含めて組織していくことが、一つ大事なのかなというのを今お話を聞いていて思っていて、例えばなんですけど、連絡会も、居場所づくりは行政が主催の連絡会とかという、ちょっとモヤモヤして、ネットワーク協議会でやっているものと、行政主体の連絡会というのが、それぞれ走っているということもちょっと不思議な感じもするので、そういう意味でも、やっぱり中間支援組織がいることによって、うまく協働してできる部分もあるかもしれないなと思ったのと、私の本当に身近な事例で、子ども食堂をやっている団体が、だけど、そこに多分、一緒に勉強を教えとかといったときに、営利団体がちょっとスポンサーみたいな感じで入っていて、そしたら市は、それは宣伝できませんみたいな、広告を受けませんみたいな、そういう事例もあつたりして、多分それは行政として仕方ないというか、そういうルールなんだと思うんですけど、中間支援組織だったら、そういう営利とか、非営利にかかわらず、そういう情報を共有できるし、行政がやってる今の図書館の支援もそうなんですけど、ほかにも多分よく見直しの評価のときにいっぱい出てくるような支援とかで、知られてないかもしれないものとかというのを行政が、行政だけが発信するというんじゃなくて、中間支援組織として、みんなで発信していたり、みんなで共有していくとかという、情報共有も、行政がとか、支援団体がとかということじゃなくて、みんながうまくやっていくということが、やっぱり一つ大事なのかなと思って、以前の提言というか、指針の中で、中間支援組織

をとというのは言っていたと思うんですけど、その在り方みたいなのところをもう少し考えてもいいのかなとはちょっと思ったところです。すみません。今のお話を聞いていて思いました。

○水津委員 じゃ、必要性を皆さん共有できれば、次に進むということはあるかなと思いますね。

○萬羽部会長 そうですね。谷村委員がおっしゃっていたみたいなの、行政にしかできないような支援ももちろんあるし、民間の企業とつなぐという、行政が主だとなかなかできないけど、そこをうまくできるような。

○水津委員 間に入るようなね。

○萬羽部会長 そう。間に入ることでできるような仕組みが、できたりしないのかなと思います。

○谷村委員 最近、手弁当、この手の手弁当って、結構好んでやっているところがいっぱいあって、ちょっと下品な話ですけど、健全な、クリーンなイメージづくりのために、製造業とかがよく学校へ行って、ものづくりとかをただで教えていたりとかやっているところもあるんですが、そういうのも含めて、もっともっと活用できるところとかというのはあるかなとは。ある種、金銭が発生しなかったら、多分、もっと行政としても受け入れやすいのかなと。

なので、今の「えにえに」とかもやられている、そういうウェブサービスとかも、多分ノンギャラでやるところとかって、でかい民間もあるとは思うんですよ。

○水津委員 そう。それは思うんです。だから、メガロスさんなんか、メガロスの募集はもちろん載せられませんが、たまに、泳げない子に無料で教える期間みたいなのを設けているんですね、社会貢献ということで。それは載せます。そんな感じのことはよくある。

○谷村委員 無料のやつは載せるという感じ。

○水津委員 無料というか、それは何のためにやっているのかという、勧誘と明らかに言ってさえないなければ載せます。

○谷村委員 明らかに言ってないけど勧誘。

○水津委員 でも、一応、泳げない子どもたちに指導するんだ、プールを開放してということは、知らないで、そこだったら参加できるということというのは有益な情報だと思うので、それは載せる必要があるかなと。

○谷村委員 難しいですね。そこは。

○水津委員 本当にそうで、「のびのびーの！」のサイトだって、どこまで関連するのか。

○谷村委員 要求仕様というのを、中間支援団体が多分明確に把握しないと、なし崩しになる怖さ

とかもありますね。

- 水津委員　そこにはちゃんとしたルールと、ちゃんとした人も必要でしょうし。
- 谷村委員　それなりに、やっぱり、軽はずみじゃないだろうなという気はすごくする。
- 萬羽部会長　それ自体も、すぐにルールが決まるというよりは、やりながら、皆の意見で、こういう場で話し合うような形で考えて、そういう微妙なラインが多分たくさんあると思うので、そこをすぐ切っちゃうというよりは、もしかしたら相談しながら考えていくほうが、むしろ情報をすくい上げられるのかな。行政が主体だと、多分、安全のほうを取りたいので、切っちゃう可能性のほうが高くなっちゃうような情報も多いのかなと思うので、その辺りをもうちよっと柔軟にというか、時と場合によって、いろいろ相談は必要だと思うんですけど、吸い上げたりできるといいのかなという気がします。
- 奥村委員　ほかの市で、そういうのを、あんまりお金のないほうの市でやっているところは何かないんですか。中間のところにやってもらって、全く手弁当にしてもらうのは悪いけれども、お金を出すとしても、どうやってお金を出すかとか、そういうところをうまくやっているところは、どこかないですかね。
- 谷村委員　流山とか、ああいうところはどんな感じなんですかね。
- 水津委員　そういう情報は、例えば行政じゃないと仕入れられないので、皆さんでまた学んでいくというのは、
- 谷村委員　なかなか忙しいんですね。
- 水津委員　ウェブサイト上だけの情報でもいいわけじゃないですか、別に。
- 谷村委員　そこは、でも、それこそ市議会議員にはお金あるんですよ。視察という予算づけがあって、そういうのをいろいろ調査して、政策立案能力というのが、本当の市議会議員の主たるところだとは思うので。
- 水津委員　では、議員に行ってもらいますか。
- 谷村委員　そこは主体的に行ってほしいとは思うんですよ。補助金って、すごい難しいなと正直思う。1回決めたものは、後でなくすと、また、これもすごく、多分、大反対が起きるものじゃないですか。今までもらえていたのに、もらえなくなったぞ、どうしてくれるんだというのはよくある話だとは思うので。そうすると、補助金を受給する要件というのを決めていくという作業を、中間だけではなくて、それこそ、RFP、プロポーザルじゃないですけど、事業者団体から、こういう要件での要望だとありがたいというようなのを吸い上げて整理するとかもあったほうがいいですよ。

- 水津委員 方向としてはそうね。
- 谷村委員 要件づくりから参加してもらおうというところが必要なのかなと。
- 鈴木委員 よく文科省が大学に新規事業を促すときとかには、スタートアップ資金として、時限付で5年間なり3年間なり出して、その間で準備して立ち上げて、あとは自前で回してくださいというスタイルが多いと思うので、多分、将来的にみたいなことを考えるのであれば、時限付の予算にしてしまうというのも1つの方法かも。
- 谷村委員 5年限定とかで、5年後にもう少し要件というのがあって、拡充するからと。
- 水津委員 実績があればね。今さら、なしにしたら、やっぱり困るということになれば、そういうのはあるだろうし。
- 鈴木委員 だから、最初はそういうつもりで、時限措置が出ると思っていて組んでいてもらえれば、その後も継続してもらえと思えばプラスになって、打ち切られてもともとだと思えば、そういうふうに計画してくれないかなと思いますけど。
- 水津委員 継続の方法も、行政の支援だけじゃなくて、それこそ言っているような民間支援とか、格好つけたい企業からお金をもらうとか、物をもらうとかというのは、それも模索できるのは、行政だとちょっと厳しいだろうけれども、やっぱり民間だったら可能性がある。
- 谷村委員 ある種、そこから自由な組織というところのほうが、自由な絵は描けるかな。
- 奥村委員 本当に居場所だというんだったら、お金がある人は、お金を払って、お金のあるところでも別にいいのかなと。
- 水津委員 そうなんです。
- 奥村委員 だって、本当に場所が困っていて、お金がない人にどうしようというところはそこでいいけれども、お金のある人は民間とか、どんどん融資してもらっていいのかなと、話を聞いていて。
- 水津委員 もともと、小金井のニーズ調査の中で、子どもたちの居場所がほぼほぼ習い事と塾だったという結果からの考え方なので、それを、そこだけじゃないよねということがスタートなんだよね。
- 谷村委員 ただただ、いるだけの場所がないというところ。
- 水津委員 そうそう、イベントはいっぱい打っているけど。
- 谷村委員 そう。ただ、イベントに参加しないで、ただそこに座っていたい子はどうするんだという、座ってぼーっとする場所がないというところが。主に課題はそこら辺のことだと思います。

- 水津委員 そうなんだよね。最初はそこから出ているので、それで、例えば児童館があるじゃないかと。児童館は4館しかないし、場所は狭くて、そんなにのんびりもできないし、「ねえ」みたいなどころの発想からやっぱり来ているところなんだよね。
- 宗片委員 あらゆる空き家のドアを開けておいて、いつでも入っていいよと。それがいいですね。
- 水津委員 本当はそれがいい。どこか空いている家があって、そこを貸してくれたら、何でもやっちゃう。
- 宗片委員 そういう話で。そういう情報をそもそも取るのが難しいということなんですかね。空き家の情報を取るのが難しいというのと、連絡が取れないというのと。
- 水津委員 それはいろいろあると思うけど、例えばだけど、もしかしたら、これだけ家があるんだから、看板を立てておいて、子どもの居場所で貸してくれる場所はありませんかみたいな広告をばーんと打ちちゃって、もしかしたら来るかもしれないじゃないですか。
- 宗片委員 そういうのがあるといいなと思う。人の問題は、そんな気がしていて、さっきの「えにえに」をつくったら、子どもの居場所を手助けしたいという方がいっぱい来るというのも、何かやりたいんだけど、どこに、どうしていいかわからない人がいっぱいいるので、むしろ、助けてくださいと、どんどん市が投げるぐらいでもいいと思う。広報紙に、こういうことをやりたいんだけど、人がいないので助けてくださいと言ったら、やりたい人が来るんじゃないのかなという気もしてて。
- 奥村委員 前に所属していた団体で、いろいろな団体が一緒になって、古い空き家をリフォームしたりしながら、いろいろな団体が組んでいたりとか、助成金を合わせながらやるので、ある程度の額はいくんですけども、そこから先が、代表者が抜けたりとか、学生がどんどん抜けたりしちゃって、継続できないみたいな感じになって、そうすると、また、どっかの1団体で持つには大変だからということで、結局ばらばらになってしまったりとか、赤字になってどうしようもなくなったみたいな、そんな感じに。
- 谷村委員 空き家活用みたいな話で。
- 鈴木委員 空き家の話は、前、出たと思いますけど、現在ある空き家で、そのまま使えるようなものは、既に賃貸とかに出したりとか活用されていて、ちょっと使うのに難があるものになっちゃうという話だったと思うんですね。だから、あるとはいえ、それほど単純ではなかったという話じゃなかったかなと。だから、ゼロ円でいこうと思うと、やっぱりハードルはあるんだろうと。
- 宗片委員 そうですね。少なくとも、光熱費とか何とかは負担できると。

- 鈴木委員 あと、危ないというのがやっぱり。
- 水津委員 安全かどうか。
- 奥村委員 床が抜けて、けがしたとか。
- 谷村委員 誰の責任になるんだというところが、昔と違って、そういうのが付きまとう時代に。
- 水津委員 そういうところは、それこそスタートアップ事業費じゃないけれども、ある程度出るようなものがあって、それが分かっているならば、そこが使えないかなということと一緒にするとかというのは、例えばだけど、普通のところで頼むと物すごいかかっちゃう修繕費だけど、こういうつながりでいったら、原価プラスアルファぐらいでいいよという人もいるかもしれないし、ボランティアにしようと思わないけどね、少なくとも。そういうようなことができないかなとか、青年会議所とかでもつながりがあると、ちょっと電気が壊れちゃったんだよねとか言うと、「いいですよ、見に行きます」とかあるじゃない。そんなものなのよ、結局。まちのつながり、貧乏なまちのつながり。
- 谷村委員 市が貧乏で、市民はそんな貧乏な気はあんまりなくて。
- 水津委員 そうなのよ。
- 谷村委員 そう。そこがまた難しいところなんですよ。
- 水津委員 うちのまちの問題はそこなのよ。
- 谷村委員 市民が金を持っているわりには、行政にあんまり金を払わない。
- 宗片委員 学童費、もっと上げていいんですかね。
- 谷村委員 そうそう。
- 萬羽部会長 でも、行政には払わないけど、そういう関係で、それで、何かうまく。
- 水津委員 収入を見たら、大きいものはないから、行政としてはそんなに、小さい行政。だけど、住んでいる人は、このまちは家が高いので、貧乏な人はあんまり住んでいないというのが、結果として。
- 萬羽部会長 そうですね。だからこそ、そういう支援をしたいという人も、直接的な目に見える支援だったらしたいという人もいるんじゃないかなと。行政に行くと、そこからどうなるかが見えないからというところもあると思うんですけど、さっきのお話もあったように、企業とか個人でも直接的にやりたいという方は意外といる気が、お金を出すとか、場所を出すとかという方も、いなくはないような気がして。
- 谷村委員 リソースは余っているよね。市民レベルでのリソースは多分余っているんだろうなと。
- 萬羽部会長 つなげば、いろいろなりそうな気は。

- 谷村委員 そのマッチングが多分されていないよというところの中間支援なんだよね。
- 水津委員 昔、家で保育ママさんをしていて、その場所でよければ貸したいんだけどみたいなおばあちゃんとかがいらして、もうちょっとちゃんと話を聞いてあげればよかったんだけどみたいな、惜しいところまでいったみたいな。
- 谷村委員 そうなんですよね。だから、うちの近所でも、御飯を食べに、子どもを連れておいでよみたいな方とか結構いらっしゃる。そこを組織化するではないですけど、それもまた、そういう堅苦しい言葉ではなくて、もっと。
- 宗片委員 マップになるといいんですけどね。
- 萬羽部会長 でも、これ自体が全部、いきなり、できるのは難しいかもしれないんですけども、中間支援のそういうものを、そういうことを見せた何か、うまくつくれるといいのかなと。
- 水津委員 かちっとしたものをつくるわけじゃなくて、人と人が手をつなぎやすくするような支援みたいなものはね。
- 谷村委員 今現状、補助金という形を取ってやっているんですけど、これはサービスする側に払うものじゃないですか。逆の方法もあるとは思っていて、ユーザー側に、例えば、地域券じゃないですけど、小金井何とかチケットみたいなのを子どもに渡して、それをお金と同じように使えるというバウチャー方式みたいな、そういうやり方も1つあるかなと。それで、おばあちゃんがそれをいっぱいもらったら、それをまた別のところという、何かしらの通貨、地域通貨で何かうまいことというのも1つの手法としてあるかなとは思う。1,000円の御飯がこの地域通貨200ポイントで食べられるとか、そういうサービスをやっているお店とか、そういうのも1つの。
- 奥村委員 きっと、そういうのだと探しますよね、大学生とか。
- 水津委員 子ども食堂の人で、やっぱりそういうことをおっしゃっている方は、お店に500円分のおかずを買いに行けるみたいな。
- 谷村委員 多分、そういうのがあると思うんですよね。特に、そういう食堂系というのは、さっき言った、食券というところでやりやすい、導入しやすいというところがあるかなと。
- 水津委員 今は、小金井の子ども食堂は手作りというか、ということになっているんだけど、もっと自由な発想があってもいいんじゃないかみたいなのは、最初の連絡会で意見が出ていました。そこも含めて、もうちょっと柔軟にいろいろ考えることもできないかなとか、そんなこともできたらいいよねみたいな。

○子育て支援課長 子ども食堂の関係なんですけど、先ほど、係長のほうからもお話ししたんですが、東京都の補助金を活用している関係で、できたものを買ってくるみたいなのは基本NGになるので、調理したものというか、コロナでだめだとかいうときは作ったものを運ぶとか、お弁当でもいいですよというふうにはなっているんですけど、やっぱり、ちょっとその辺が制約があるというところがありますね。そこがうまく、例えば、居場所の事業をしている中で、夕食前のおやつ的に、おにぎりをどこかから買ってきたのを、夕食という形ではなくて、子ども食堂という形ではなく、居場所の事業の中で、そういう補食的なのを出すとか、そんなのはあるのかなとは思うんですけど、やっぱり食べ物が入ってきたりすると、衛生上の問題もあつたりはするので、その辺はなかなか、ある種、多少はそこは制約があつてもしょうがないかなというところではあるかなと。どこまで、そこは自由度を設ければいいのかというのは非常に悩ましいというか、難しいなという部分があります。

○水津委員 東京都の要綱でやっているから、いろいろな制限があるのはしょうがないんだけど、基本的に手作りのものを食べることだけが目的じゃないというか、そこで、1人で食べないで、誰かと食べるということを目的にしたいというところもあると思うんですよ。だから、そういう考え方で、みんながいろいろなものを持ち寄って食べてもいい場所みたいなのも、考え方としては、子ども食堂のそもそもの理念からは外れていないんじゃないかなとは思っているんです。ただ、それは今の補助金の制度では無理だけど、でも、もっとこういうふう考えられるんじゃないとか、食堂の意義はこっちにもあるということをもとめて提言するとかということではできていると思っています。連絡会で言うのもね。

○奥村委員 それで、コーディネートするところがあつて、いろいろな団体から吸い上げて、こういう意見が多いですとなれば、多分すごい力が、1団体か何団体が市に言うよりかは、全体で集めて、全体の60団体がこういうことを言っていますと言ったら、多分、何かしら変える力はあるそうだから、やっぱりまとまると強いのかなとか、今、話を聞いていると。

○水津委員 そうなんです。子ども食堂の話になっちゃうけど、最初の説明会のときに、そういうふうにしてやっているんだという団体があつて、でも、こちらは、今おっしゃったように東京都の要綱でやっているからという。そうすると、そこですれ違いじゃないですか。でも、この人たちは、その話をしたいわけ、いろいろ。でも、こちらは、今日は説

明会だから、この要綱でというふうになるじゃないですか。そうすると、しょうがないから、私がしゃしゃり出まして、「そういう話も、今後、みんなでできるといいですね」と言って流すわけですよ。流すというか、次の課題にというふうになる。具体的に言っちゃうと、そういうことも必要だなと思って。最初は、本当にそのやり取りを見て、これは難しいと思っちゃったんだよね。そういうのって、ありがちでしょう。食堂をやっている人は一生懸命だから、自分の理念をしゃべりたいわけですよ。

○谷村委員 難しいですね、そういうのは。

○水津委員 でも、行政の人は、この補助金はこうですと、説明をするのがお仕事だから、何も悪いことはしていませんよ。

○奥村委員 理念だって、よっぽど外れていなきゃ、別に、そこで、その理念は駄目だなんていうことは

○水津委員 そんなことは言わない。ただ、今回の補助金はこういうことですよと言うしかないじゃないですか。

○谷村委員 行政の言語を話せる民間企業が一番強いんですね。そこを踏まえて、翻訳機能を持った中間組織という。今日、どんな感じで着地をするんでしょうか、そろそろ。

○水津委員 今日の予定はあるんでしょうか。

○谷村委員 座談会になっちゃうかなと。

○萬羽部会長 今日は座談会でいいんですけど、実は多分、次回が年度を明けて、5月とかになると思うんですけど、そのときに、次に向けた提言というか。

○谷村委員 もっと重要なポイントというのが何個か出てきたのかなと思って。

○萬羽部会長 そうですね、それを。

○谷村委員 そこは、やっぱり認識合わせをしたほうがいいかなと思って。中間組織の重要性というところと、あと、補助金の要件というところをどういう、補助金自体にスタートアップの特性を持たせるのかとか、要件とかというところを、今後、そこを設けるべきか議論すべきだということと、あと、いろいろな、今後出てくる子どもの居場所というところをやりたいという団体を、丸か、バツか、三角かというところを多分つけなきゃいけないというところを考えると、閾値というので、前回の居場所部会で、前回の最後に、目的、目標みたいなものを書かれたと思うんですけど、そのブラッシュアップじゃないですけど、定期的な見直しというのは必要なかなと。ここが多分、継続して行っていく上での非常に重要なポイントかなと僕は認識しています。

- 萬羽部会長 今日出てきた、今のようなお話とかを踏まえて、次のときに、今年度の提言のたたき台というような形で整理をするという形になるので、今日言っていたような、今、お話ししていただいたようなキーワードを抽出して、次のときから整理のほうに入っていきたいと思うので、逆に、今、残りあと僅かですが、言い残したこととか、次に向けてこれだけはみたいなことがもしあれば、追加で。
- 谷村委員 遺言的な。
- 萬羽部会長 今、言っておくと、次のたたき台の整理のときに。
- 谷村委員 次回、俺は出られないけど頼むなんて、今のうちに。
- 萬羽部会長 次のときには整理に向かっていかなきゃいけないので、ちょっとあれなんですけど、何かほかにございますか。
- 奥村委員 最初の発表のところで、課題の中で、人の確保というのがあったと思うんです。先ほどの「C o - L a b o r a t o r y」でも、学生に近いような男性の方がいるけれども、また、そこが終わった後に次の募集とか、多分、108団体あるので、みんな学生とか、いろいろな人材を集めていたりはするとは思いますが、いろいろな団体を見ると、人集めが厳しそう、スタッフ集めが厳しいとか、利用者が厳しいとか、そういうのは結構聞きますか。
- 水津委員 場所によっては、そういうところもありますし、うちは学生のところだと結構あるので、次も可能かなと思っていますけど、なかなか直接的には人集めのできない団体というのがたくさんあるので、そういう意味では、窓口で例えば、こうこう、こういう活動のボランティアしたい人を募集しているとかというのを出して、それを定期的に学生の人たちにも見てもらえるような情報の発信、共有の仕方みたいなのがもうちょっとできると広がるかなとは思っています。学生にとっても、学びの場には絶対なると思うので。
- 萬羽部会長 連絡会というか、ネットワークの中に大学が入ってするのが一番いいのかなとは思ったりしました。
- 奥村委員 大学の先生とか、授業のときにちょっと紹介して、それで定期的に学生が入ってきて、継続していけたりするけれども、そういうのがないと、知り合いでやっていたりすると、だんだんと消えていくような感じが。
- 水津委員 そうですね。今も未来研は入っているので、そこ絡みでの学生というのがありますけど、もうちょっと幅を広げたいかなという。学生も、そういう活動をしたいけど、どこにアプローチしたらいいのか分からないというものもあると思うので。

- 萬羽部会長 あと、結構、ピンポイントで入りたいみたいなのもあるかもしれないですね。継続的ではなく、今日はたまたま日が合うからこの団体で、今日はこの日が合うからとかというのもあり得るので、そういう意味で、どこかの団体に所属してとかという、かちっとした形よりも、空いているスポットで入れるような、そういう仕組みができれば、やりたいという人はもっと増えるような気がします。
- 水津委員 今日は、そのイベントに手伝いに行きたいんだみたいな。
- 萬羽部会長 そうです。この日が空いていますみたいなのは結構あるので、学生って、割とそういうところがあるので。
- 奥村委員 こういう感じの手伝いをやりたいといっても、一から、108団体から探すのは大変だし、誰か中間のところでコーディネートしてくれる人がいたら、もっといろいろな人が活躍できそうかなというのは思っています。
- 水津委員 発信の方法を、やっぱり若者の目に触れられるような。
- 萬羽部会長 そうですよ。
- 水津委員 そうなのは、やっぱり先生とも協力していただいて、どうすれば情報発信が有効にできるかというのはあると思うので。やっぱり、こういう東京学芸大学があるという。
- 奥村委員 法政大があったりとか。
- 水津委員 農工大もあるし。
- 谷村委員 そういうシステムをつくれたら、ビジネスの香りがふんぷんするなと思って。こういう支援活動に困っている人を、それこそ人員募集するのと同じじゃないですか。
- 奥村委員 そういうニーズが下りてくれば、結構すごいことになりそうだなという。
- 萬羽部会長 大学でも、学校ボランティアとかを、そういう仕組みでできないかなというのがちらちらと話が出ていたりするので。
- 谷村委員 リクルートとか入ってきたんですか。
- 萬羽部会長 いや、そういうあれではないと思うんですけど、でも、ちょっと企業とうまくやって、そういうシステムをつくらうみたいな。
- 谷村委員 そのポイントが就職活動に有利に働くといったら、多分、ごまんと学生がボランティアし出すと思って。アメリカとか、よくあるじゃないですか。こういうボランティア活動をやってたというのが就職に対して、すごいアドバンテージ。
- 古源職務代理 そういう授業の一環で、例えば、学習支援のボランティアに出ると単位がつかますよとか、そういうサービスマーケティングとかがある学校もありますよね。

- 萬羽部会長 あるんですけど、ちょっとそれがまた、同じところに百何十時間とか、結構そういう縛りがあって、そういうのがちょっと今の学生のライフスタイルに合っていないような気がして、もうちょっと。
- 谷村委員 リクルートを入れたほうが。民間とつなぐのは、我々はマーケットから離れたところにいるので。
- 萬羽部会長 そうですよ。
- 奥村委員 コーディネートのところへ行くと、そのコーディネートからいろいろなところに派遣できたら。
- 萬羽部会長 できるといいねという。ちょっといきなり全ては難しいかもしれないんですけど、でも、学生だけじゃなくて、社会人の方とかでも、この日はやりたいとか。
- 水津委員 それも含めてね。
- 萬羽部会長 含めてでやれるといいですよ。
- 宗片委員 行ったほうがインセンティブ。
- 谷村委員 就職活動。
- 宗片委員 ですかね。やっぱり、一般市民の人を巻き込みたい。
- 水津委員 谷村さんが言うと、みんな、裏に何かあるんじゃない。
- 萬羽部会長 どこかの企業と。
- 谷村委員 継続的にお金が入ってくるシステムという、やっぱりそうなんだね。
- 萬羽部会長 継続性のため。
- 鈴木委員 人が、やりたいと言うのもいいんですけど、もうポテンシャルとして、そういうのをやってもいいという人を登録するような制度をつくっておく。
- 水津委員 それもあるよね。
- 宗片委員 ファミサポがあるので、ああいうのも何か。というか、ファミサポって、子どもをサポートしたい人ばかりなんだから、延長で申請できませんかね。
- 鈴木委員 多分、シルバー人材に関しては、そういうのがあるんですが。あと、講師登録もなかったっけ。そういうふうに、合いさえすればやってもいいよというリストさえあれば、そこに投げれば、みんな、そういう人に伝わるというシステムさえあれば、ある程度はいけるかなとは思んですけど。
- それはそうと、人材に関してずっと気になっていたんですけど、中間支援が結構大事だというのは前々から言っているんですけど、話を聞いていると、結構な玄人じゃないと

務まらない。そっちはどうやって探すんだとか、全然分からなくて。

- 谷村委員 そこは水津さんが。水津さんの紹介と推薦で。
- 鈴木委員 いや、水津さんがいなきゃ駄目じゃないですかね。
- 水津委員 明確になれば、ちゃんと、こういう子はこういうものというふうなのが、ルールとやり方があれば。
- 谷村委員 指針とか方針とかという、さっきの閾値がぐらぐらだと、多分難しいんだと思うんですよね。
- 水津委員 だから、今、何にもないのに、ネットワーク協議会に、そういう雑多な相談が来るのを毎回、こういうのが来ています、どうしましょうと言いながら、ついにこういうのも来たかみたいなのを言ったりとかしている状況だから、もうちょっとちゃんとすれば、こっちもちゃんとルールを決めて、私たちは相談員じゃないので、相談は受けられないけど、窓口をきちんと責任を持って紹介するとか、そういう方法をちゃんとできればいいのに。今、そんなつもりはないのに、看板を置いちゃったら、いろいろのが来ちゃっているから、ちょっとびっくりみたいなのところがあるけど。
- 鈴木委員 どっちの言語も理解できる人というふうにすると、割と少ないのかなと思いますね。
- 萬羽部会長 確かに。
- 鈴木委員 そこが欲しいとなると、さっきの話だと、既にやっているような、活動を始めているような人から見ても、分からないというような話だとすると、相当玄人じゃないと、そのポストにはいられなくて、間をつなぐというポストにはいられなくて、やってくれる人がいたとしても、研修じゃないけれども、ある程度の助走期間がないと務まらないとなると、結構そこがやっぱり、どう立ち上げていくかというのは難しいかなと思います。
- 萬羽部会長 ただ、コミュニティ・スクールとかが、今、小金井で進んでいったら、割とそういう、ちょっと近いというか、専門的な方たちも育成されてと言ったら変なんですけど、そういう方々もまた増えてきたりして、ちょっと雰囲気が変わったりするのかなとは思ったりしたんですけど。
- 鈴木委員 コミュニティ・スクールが機能しているのかが分からないんですけども。
- 萬羽部会長 今後というか、今から。
- 谷村委員 まだ。
- 萬羽部会長 でも、割とコミュニティ・スクールをされている方って、そういうこともやっている方が多くないですか、ほかの市だと。そうでもないですか。

○古源職務代理 そうですね。中心的になってやっている方は、まさにそういうコーディネート業務みたいなのをやっているからなので、多分、水津さんが今なさっているようなことは、経験値がすごくあるので、もちろん、そのネットワークを持っているし、地域のつながりを持っているし、そういう方がきつといるんですよね。

○水津委員 いたらいいね。

○古源職務代理 何か中間支援ということが、もっと具体化したら。

○水津委員 そうそう。具体化すればね。

○古源職務代理 やっぱり違ってくるんじゃないかなという気はします。

○水津委員 そうだね。感覚だけじゃなくて、ちゃんと具体化して、誰でもと言ったら変だけど、次のいろいろな、そういう人が含まれてくるというふうにしないと意味がないので、それは重要だと思います。

○古源職務代理 ただ、今まで、ちょっとお話を聞いて、「えっ」と思ったんですけど、誰でもいいわけじゃないんですよね。子どもに関わることなので、もちろんコーディネーターもそうなんですけれども、ボランティアさんにしてもそうだと思うんですね。先ほど、フィルタリングの話がちょっと出たかと思うんですけども、こういう子どもの居場所をやりたいという民間の人を、駄目だよと言う人はいないじゃないですか。なので、前に決めた一番大切な視点ということ、もう1回、今度の提言のときに言っていく必要があるのかなと。立ち上げるほうの人の自覚にかかってくると思うので、そこをもう1回言っておくのが必要なのかなと思うのと、あともう一つは、よく谷村さんがおっしゃるけれども、子どもにとって必要な居場所と、大人がこういうのをやりたいというのはまた違うので、そのすり合わせとかをもう一度確認したほうがいいのかないかなという気がします。

○谷村委員 そこは、すごい難しいですね。親がこうあってほしいと思うのと、子どもがこうしたいというのは、そのギャップはずっと付き物なので。

○水津委員 あと、星の数あれば。

○谷村委員 選択肢を増やすというのは1つ。

○水津委員 それこそ虐待するようなところだと困っちゃうけど、絵ばかり描いているところとか、本当に勝手に遊んでいるばかりみたいなところとか、勉強しやすい環境があるところとか、いろいろあればいいんじゃないという。

○奥村委員 本当に人対人なので、同じようなことをやっていったって、こっちには行きやすいけど、こっちには何となく行きにくいというのは絶対あって、居場所というのはそういう

感じなのかなと思うと、ある分には別に構わないかなという感じは。助成金をあげるかどうかはまた別の問題なんでしょうけど。

○水津委員 補助金の話とはちょっと離れちゃうけど、やっぱり子どもにとって、1人でも2人でも、自分のことを見てくれる人とか、気にしてくれる人とか、あと、合う、合わないがあるので、すごく評判のいい人でも自分には合わないということもあるかもしれないですね。そういうところでも、強要されるわけじゃなくて、楽しく、その子にとっての居場所みたいなのが見つけれられるようなまちだったらいいなと思っています。

○谷村委員 こういう子育て層の、子育て事業のいっぱいあるものもそうなんですけど、誰がターゲットなのかというのを、子どもというざっくりした話ではなくて、本当になくて困っているという人と、何となくあったらいいなという人は、ちょっとどっかで分けて考えたほうがいいと思うんです。ないと本当に、なくて本当に困っていると。親が会社を休まざるを得ない状態になっているとかという条件の場合と、子どもが何となくずっと家にいるんだけど、どっか外に出してくれる場所がないなというのの喫緊度がちょっと違ったりすると思うので、その喫緊の具合というのはウオッチする必要があるのかなと。それこそ、前回の委員の方とかも、不登校で本当に困っているという状態と、うちみたいに、いつまでも家にいて、ちょっと外へ行ってこいとかというレベルではちょっと違うのかなとは思っているんで、そこは本当に困っている喫緊具合というのが、まとめるという言い方もあれですけど、ちょっと考慮したほうがいいのかなと。

○水津委員 なかなか、実際にやっぱり、そういう御相談みたいなのもあって、それに対してどうするのかというのは、私たちがびっくりしながらも対応しなきゃいけないなのもあるし、いろいろですよ。緊急度と言われたら、それは別々かもしれないけど、でも、その子にとっては緊急なことかもしれないし。

○谷村委員 難しいんです。難しいんですけど、どこまで追い込まれているかというところも定量的には判断できないところがある。

○水津委員 確かに難しい。そうなんだよね。見た目にはそうでもないけど、物すごい追い込まれているかもしれないし。

○奥村委員 本当に外見から見てもすごい困っているんだと、行政のほうから分かりやすいところはあるんでしょうけれども、本当に見た目では分からないとか、どの程度か分からないというところだと、大丈夫といえど大丈夫と思われてしまうから、何かそこら辺が微妙なラインになりますけど。

○水津委員 話は尽きないけど。

○萬羽部会長 すみません。ちょっと時間のほうが過ぎてしまいまして、すみません。

それでは、そろそろ、今日は一旦終わりにしたいと思います。本日は、お忙しい中、水津さんに御出席いただきまして、ありがとうございました。

先ほども少しお話ししたんですけれども、前期の子ども居場所部会の委員の皆さんからの御意見からつくられた、小金井市の子どもの居場所づくりの推進に関する指針には、今後の取組が示されています。今年度始まりました市の支援の状況や、実際に活動する方のお話ということで、今日、水津さんからお話を伺うこともできました。これを受けて、さらにまた一歩、居場所づくりを進めるためにどうしたらよいか。子どもの居場所部会として、次回、皆さんと一緒にまた意見を交わして、最終的に御意見をまとめて、本体の子ども・子育て会議に報告したいと思いますので、引き続きよろしく願います。

それでは、次第の（２）は以上とします。

最後に、事務局から、次回の予定につきまして連絡をお願いします。

○子育て支援係長 次回は、５月ぐらいを予定しております。後日、改めてメールにて日程調整させていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。また、開催直前の感染状況等によりまして、ウェブ会議の御相談をさせていただく場合がございますので、御了承ください。

事務局からは以上です。

○萬羽部会長 それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —